

■ VISTA 5 ユーザーレポート

株式会社テレビ北海道 様

VISTA 5

TVh テレビ北海道

ニューススタジオに VISTA 5 を導入



株式会社テレビ北海道
技術局 技術部 制作技術課
池田 修

ニューススタジオ

テレビ北海道では18年間使用してきたニューススタジオの更新を行いました。マスターや制作スタジオは既にデジタル化更新が終わり、局内のデジタル化更新としては最後の作業となりました。今回の更新では、サブのレイアウト変更なども含めた大規模な内容となり、音声以外のシステムや建築などの仕様決めを短期間で同時に進めていかなければいけないという、極めてハードなスケジュールとなりました。



STUDER デジタル卓への信頼

今回、VISTA 5での導入を決めた最大の理由は、4年前に更新を終えている制作スタジオにSTUDER D950M2があったからです。この4年間、数多くの番組で大きなトラブルも無くD950は活躍しており、STUDER製のデジタル音声卓を採用することはごく自然な流れでした。実は当初ニューススタジオには、On-Air 3000を検討していましたが、今回更新するサブがスポーツ中継などの受けサブとしての機能も充実させる事になり、コンパクトでサラウンドに対応しているVISTA 5での採用となりました（現在はOn-Air 3000もサラウンド対応となりました）。

あくまでもニューススタジオであるため、カットイン時など素早く確実なオペレーションが求められますが、そのためにも分かりやすい卓である事が絶対条件でした。オペレーターのほとんどは、既にD950でSTUDERデジタル卓の概念を理解しており、工事完了から運用まで2週間という準備期間は十分なものでした。また制作スタジオのD950同様に、カスタマイズ部分を必要最低限にとどめました。あえて標準仕様で運用することで操作感がシンプルになり、ヒューマンエラーを軽減する事が出来、また余計な機器トラブルも回避出来ます。これも卓自体で柔軟な対応が可能となるVISTAだから出来る技なのかもしれません。

1ヶ月経って

運用開始から早いもので1ヶ月が経ちますが、全くトラブルが発生していません。今回のスタジオ・サブは番組を制作する側が常に高いモチベーションを持って作業できる環境になったと思っています。後はD950の時と同じ様に、VISTA 5が持つ機能をフルに活用して、良質なコンテンツを制作する事に日々精進するのみです。

最後に、システム設計・構築にあたり、ご尽力いただいたSTUDER JAPAN関係者の皆様にご場を借りてお礼申し上げます。

